

平成29年度 年次大会

◎ Japan Material Handling Society ◎

聴講者募集のお知らせ

MH新技術と
ニューソリューションを求めて

日本マテリアル・ハンドリング（MH）協会では、日頃の研鑽成果の発表の場として、マテハン（MH）の優れた開発や運用などの改善合理化事例を発表いただく、「平成29年度MH年次大会」を下記要領にて開催致します。本大会は、広く産業界の皆様へもご案内し、発表者と参加者がマテハンの新技術について共に考え交流することを目的としておりますので、皆様お誘い合わせの上、奮ってお申込みください。

聴講者募集概要

◎主催：日本MH協会 共催：日本包装技術協会

とき : 2018年2月20日(火) 13:30~17:00

ところ : (公社)日本包装技術協会 会議室
(東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階)
(都営浅草線・東京メトロ日比谷線「東銀座駅」より徒歩2分)

発表者 : (株)日通総合研究所 (基調講演)
(敬省略・発表順) 西部電機(株)・(株)豊田自動織機・(株)オムニ

参加費 : 会員 ¥3,240-/人 (税込)
一般 ¥9,720-/人 (税込)

※会員とは、日本MH協会又は日本包装技術協会に
所属の法人・個人の方が対象となります。

定員 : 50名

申込方法 : 下記お申込欄にご記入の上、FAX (03-3543-8970) にてお申込みください。
お申込受領後、お申込欄「①」にご記載の方に、請求書等を発送いたします。

お問合せ : 日本MH協会：佐藤 TEL：03-3543-9335 / E-mail：yuki-sato@jpi.or.jp

会場案内



日本MH協会 佐藤 行 FAX 03-3543-8970

①	お名前			
	ご役職			
②	お名前			
	ご役職			
③	お名前			
	ご役職			
貴社名				
所属団体名 (いずれかに○)		日本MH協会	日本包装技術協会	一般
ご住所		〒		
TEL				
FAX				
E-mail		@		

※日本マテリアル・ハンドリング(MH)協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当会ホームページ「個人情報保護方針」
(<http://www.jmhs.gr.jp/>)をご覧ください。

平成29年度 MH年次大会 プログラム

開催日：平成30年2月20日（火）

基調講演 株式会社日通総合研究所

13:30～14:30

『物流業界における労働力不足の状況とその対策に向けた取り組み』

－ドライバーの生産性向上に貢献する「ろじたん（ドライバー用）」－

発表者：Research & Contents Unit Unit Leader 大島 弘明 氏

Advanced Technology Unit Unit Leader 井上 浩志 氏

内 容：物流業界ではトラックドライバーを中心に労働力不足が顕著となっている。運送業界におけるトラックドライバー不足の状況と今後の見通し、また、その背景にある物流業界の課題や問題の解決に向けた取り組みなどについて調査・研究した結果を報告する。また、トラックドライバーの業務内容を簡単に把握でき、生産性の向上に貢献するシステムとして開発を進めている「ろじたん（ドライバー用）」をご紹介します。

事例発表① 西部電機株式会社

14:40～15:10

『ロボティクス・マテハン® の開発と

コンパクトロボットソリューション「コンテナ積み下ろしロボットシステム」導入事例』

発表者：マテハン事業部営業部 事業企画担当部長 吉田 千春 氏

内 容：①西部電機(株)が推進する、ロボティクス・マテハン®と同コンセプトに基づく開発動向
②一昨年発表し、昨年導入されたオリコン積み降ろしロボットシステムの事例と効果
③同じく一昨年発表した出荷ラベル貼付ロボットの導入背景、事例と効果、また今後の方向性
以上3点を中心にご紹介する。

休憩時間 15:15～15:25

事例発表② 株式会社豊田自動織機

15:25～15:55

『トヨタL&Fの物流ソリューション』

発表者：物流ソリューション事業室 物流エンジニアリング部

室長 熊倉 孝氏・ 主査 阿曾 操氏

内 容：物流現場の省力化・省人化に貢献するトヨタL&Fの物流ソリューションを、お客様での導入事例を通じてご紹介する。あわせてモデルチェンジを行った新型自動運転リーチ式フォークリフト「Rinova」AGFをご紹介します。

事例発表③ 株式会社オムニ

16:00～16:30

『物流センターマテハン設備の保守点検とリニューアルの重要性』

発表者：LSC事業部 コンサルタント 馬場 聡氏

内 容：物流センターにおけるBCP対策として、「安定的に製商品を提供できる環境」を整備する必要がある。故障などによるマテハン設備の稼働率低下は、事業経営そのものを揺るがす事態になりかねない。そのリスクを最小限に抑えるためには、保守点検業務を十分に実施した上で、適切なタイミングでリニューアルを実行することが重要である。実際にご支援させて頂いている企業様の予防保全への取り組みと、先進的な改修事例を合わせてご紹介する。

全体質問・名刺交換 16:35～17:00

主催：日本マテリアル・ハンドリング(MH)協会 共催：日本包装技術協会